

東京江北ロータリークラブ 五十周年記念誌

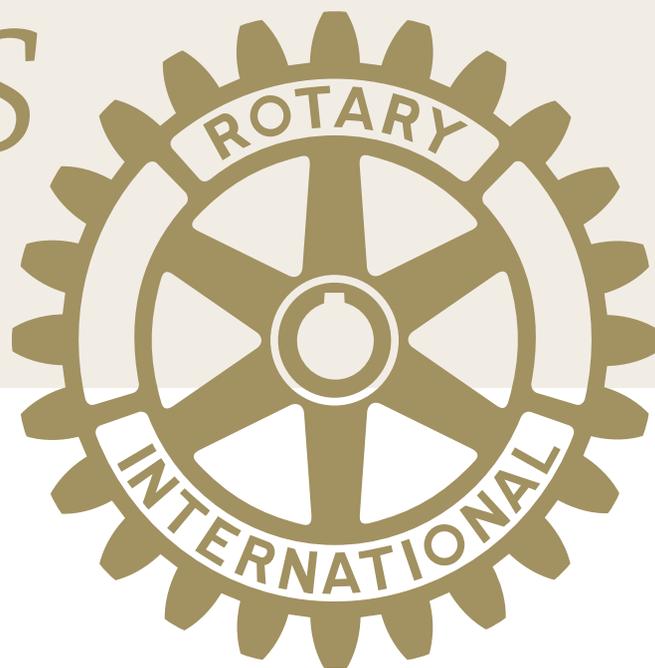
明日に向かって



# CONTENTS

## 明日に向かって

東京江北ロータリークラブ 50 周年記念誌



口絵カラー・創立 50 周年記念式典

ご挨拶 会長 高橋 祐太郎

祝辞 ガバナー 多田 宏

祝辞 区長 近藤 やよい

祝辞 ガバナー補佐 大森 幹彦

祝辞 ガバナーエレクト 上野 操

祝辞 パストガバナー エイドリアン・メンデス

事業報告 実行委員長 佐藤 徹

第 I 部	50 周年記念式典\ 50 周年記念事業	1
第 II 部	東京江北 RC の 50 年の歩み	15
第 III 部	クラブとしての RC 活動	93
第 IV 部	諸資料・諸記録	119
	会員プロフィール	141
	編集後記	197



東京江北ロータリークラブ50周年記念式典

2010.3.18.



# 創立50周年記念式典



記念例会全景



会場入口



ロータリーソング斉唱



ご来賓の方々



記念例会出席者の皆様



会場受付



控室風景



米山記念奨学会への贈呈



ロータリー財団への贈呈



バギオ基金への贈呈



永年在籍会員の表彰 (代表…田中三郎会員)



記念コンサート全景



演奏者 (ジャスミン・デュエット)



記念コンサート聴衆席



# 創立50周年記念式典



祝宴全景



開宴挨拶 (服部義雄実行委員会顧問)



50周年を顧みて (磯貝俊一実行委員会顧問)



乾杯 (古宮誠一 PG)



祝辞 (ウォルナット・クリーク RC レム・バーナード 会長)



会長来賓席



PG 席



ウォルナット・クリーク RC とのバナー交換



着衣ベストの交換



日米交歓 1



日米交歓 2



日米交歓 3



日米交歓 4



日米交歓 5



日米交歓 6





# 創立50周年記念式典



会員交歓 1



会員交歓 2



会員交歓 3



会員交歓 4



会員交歓 5



閉宴挨拶 (石鍋元章実行副委員長)



「手に手つないで」 斉唱



## ●認証状



## ●クラブの輪郭

創 立	昭和 35 年（1960 年）3 月 17 日
スポンサークラブ	東京東ロータリークラブ
初 代 会 長	鈴木 又右衛門
ガ バ ナ ー	柏原 孫左右衛門
特 別 代 表	那波 光正
国際ロータリー正式加盟承認	昭和 35 年 6 月 7 日
認 証 状 伝 達 式	昭和 35 年 6 月 28 日
例 会 日 時	毎週木曜日 12：30～13：30 （昭和 41 年 1 月より第 4 例会日に限り 18：00～19：00 であった 夜間例会は、平成 17 年 7 月から廃止）
例 会 会 場	上野精養軒（東京都台東区上野公園 4 - 58）
事 務 所	〒130 - 0013 東京都墨田区錦糸 1 - 1 - 5 A ビル 6F TEL：03 - 5637 - 4602 FAX：03 - 5637 - 4611 E-mail：kohoku@club.email.ne.jp HP アドレス：http://tokyo-kohoku-rc.org

### クラブ事務所の推移

創立当時は井関農機株式会社内に、その後、スタンダード製靴株式会社・中央信用金庫・東京味噌会館を経て昭和 48 年 9 月に東京都墨田区江東橋 4 - 24 - 8 エスケービル 5F に移転し、東分区に属する複数クラブの共同事務所とした。その後、平成 18 年 7 月から現在の A ビル内に移転した。

その間、当クラブの活動の蔭の力となって活躍したのは次の事務員諸嬢である。

大島 八重子	創立以来～1960 年 7 月
浦林 次子	1960 年 7 月～1964 年 9 月
深沢 睦子（旧姓大岩）	1964 年 9 月～1969 年 10 月
塙 玲子	1969 年 10 月～1973 年 9 月
木山 万規子	1973 年 9 月～現在に至る



## ●バナーについて

現在のバナーは葛飾北斎の円熟期の作品「富嶽三十六景」の一図で、千住から富士山を望んだ景に基づく。前面の建物は、当時町内に立ち並んだ40軒ほどの旅籠屋の家並みである。千住町は江戸時代の始めから日光道中、水戸・佐倉道の初宿駅として定められ、常に街道を往来する旅人や宿泊客で賑わった町である。特に参勤交代の大名や日光東照宮に参詣する役人の行列などが通行する時は一段と混雑した。この千住の町は当クラブのテリトリーにあり、現在に至るも東京東北部の拠点として繁栄を続けている。

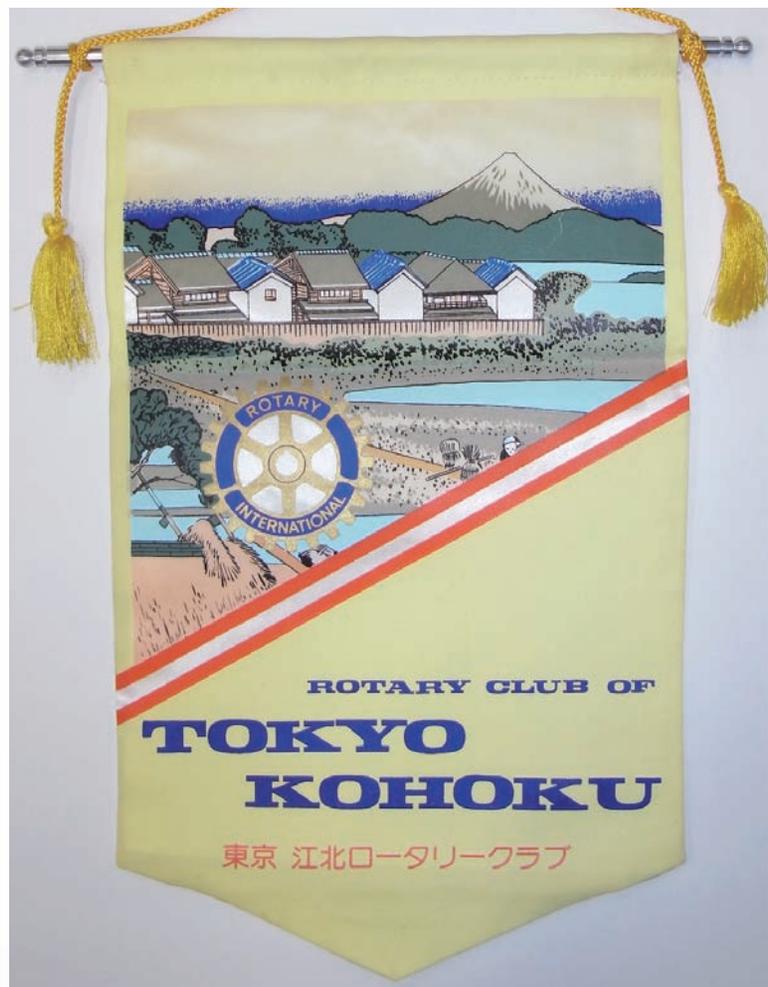
### 1. 設立時（日本列島に松と帆かけ船）



### 2. 昭和41年（1966年）6月（銀地に名前だけ）



### 3. 昭和53年（1978年）11月（現在の北斎の富士）





## ご挨拶

国際ロータリー 2580 地区  
東京江北ロータリークラブ  
会長 高橋祐太郎



国際ロータリー第 2580 地区東京江北ロータリークラブ創立 50 周年記念例会の開会にあたりましてご挨拶申し上げます。

本日は、誠にご多忙の中、国際ロータリー第 2580 地区ガバナー多田宏様、足立区長近藤やよい様、第 2580 地区東分区ガバナー補佐大森幹彦様をはじめと致しまして多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜り、創立 50 周年の記念例会を開催する事が出来ました事を心から御礼を申し上げます。

当クラブの歴史をひも解きますと、1960 年 3 月 17 日東京東ロータリークラブを親クラブと致しまして、21 名の会員の下国際ロータリークラブから承認され設立いたしました。

半世紀にわたりますクラブの歴史は、様々な世界の情勢の中で多事多難なときも有ったことと拝察しておりますが、先輩会員の誠に強いロータリー精神のもと、団結を致し、厳しい環境の中を乗り切り、無事に 50 年の記念すべき節目の年を迎えたのであります。現在、在籍致します我々会員と致しましては、改めまして先輩会員の皆様方に深く感謝の念を捧げるもので御座います。

そして今、我がクラブの 50 年の歩みを振り返るならば、さまざまな事業が御座います。

その一つと致しまして、我がクラブの歴史を象徴すべき事業となります夏期交換学生の交流事業は、サンフランシスコのウォルナット・クリークロータリークラブと 1967 年以来 43 年間にわたり継続を致してまいりました。

本日のこの記念日に当たりましては、この事業の創始者であります当クラブの田中三郎会員もご健在で参加をされており、そしてウォルナット・クリークロータリークラブの事業創始者でありますエイドリアン・メンデスパスト会長も、23 名の方々と共に遠路お祝いに来日され、後ほどの祝宴にご出席を頂き、会を盛り立てていただくことになっております。

この事業は我がクラブと致しましても、友情の証ともいえる偉大なる事業の一つとして誇れるものであり、これまでの多くの会員の方々のご努力が無ければなしえなかった事業でもあります。

また、そのほかにも我がクラブが長年の歴史の中で続けて参りました事業も御座います。

米山記念奨学会事業へのクラブあげての資金的協力や、来日されます奨学生のカウンセラーとしての協力、また、青少年育成のための会員一人お一人の物心両面にわたるご支援など、50 年の歴史の重さを改めて実感する、本日の



記念すべき日でもあります。

そして本年は、創立 50 周年の記念事業といたしまして、2 月 18 日には、足立区役所中央公園内に、近藤区長のご臨席をいただきまして桜の苗木の「植樹式」を挙げていたしました。また、3 月 4 日には、西新井大師光明殿におきまして、我が東京江北ロータリークラブの礎をおつくり頂きました多くの先輩ロータリアンのお御霊に感謝の念を捧げるべく「物故会員追悼法要式」を挙げていたしました。そして、今後、足立区の「ふるさと桜オーナー制度事業」にも会員全員の賛同を得まして、一人一人の名前と共に桜の苗木を植樹させていただき、将来の足立区の見守りたいと一同願っているところで御座います。

我が東京江北ロータリークラブは、本日の創立記念例会に当たりまして、これまでの 50 年の歩みを深く感謝し、これからの更なるクラブの発展を願い、佐藤徹実行委員長のテーマであります「明日に向かって」の志を大切に、あらたなる第一歩を踏み出して参ります。本日で来会を賜りましたご来賓の皆様方、会員並びに会員ご家族の皆様方、関係各位の皆様方におかれましては、今後ともより一層のご支援ご協力をお願い申し上げます次第で御座います。

結びにあたりまして、ご臨席頂きました皆様方のご健勝、ご隆盛をご祈念申し上げましてご挨拶と致します。

本日は、誠に有難う御座いました。



## 祝 辞

国際ロータリー 2580 地区  
ガバナー 多田 宏



この度は東京江北ロータリークラブ創立 50 周年という記念すべき時に記念誌に御祝辞文を掲載していただきまして、誠にありがとうございます存じます。

1960 年（昭和 35 年）3 月 17 日に創立され、同年 6 月 7 日 RI より承認され半世紀が過ぎました。1960 年といえば、我が国は終戦から 15 年が過ぎ、焼け野原から目覚ましい復興が一段落し、いよいよ次のステップアップへ向けて全国民が夢と希望に胸をふくらませ、もはや戦後ではなく独立国家として又、世界の先進国の仲間入りを願い、声高に国際感覚を身に付け、産業の繁栄と所得倍増に前進を始めた時代でありました。

そういう時代背景の中、東京東ロータリークラブの仔クラブとして産声を上げ、東京葛飾ロータリークラブ、東京足立ロータリークラブという 2 つの仔クラブを産み、更にそれが基で合計 4 つのロータリークラブを産出され、当 2580 地区のみならず日本のロータリー界の拡大、増強に寄与されましたことは、誠にあって輝かしい足跡を残されたのであります。地域社会の繁栄と発展、更には東京・我が国の繁栄、発展に尽力されましたことは、並々ならぬ御努力の賜物であると確信致し、大慶に存じ上げる

次第でございます。

以来、日本のロータリー活動は、その持てる本来の哲学、理念を正確かつ確実に行動に移し、世界のロータリーを牽引してこられました事は、皆様御高承の通りでございます。

21 世紀に入り今、世界は又日本も大きく変化しております。今こそロータリー精神を高々と掲げ、人類平和の為、ロータリアンお一人お一人が行動をとる時であります。貴クラブの御活躍振りは我が 2580 地区全ロータリアンの模範といたすところであり、又当地区内 70 クラブに活力を与えて下さっておりますことを感謝申し上げ、奉仕の理想と親睦友愛の灯をいつまでも絶やすことなく、100 周年へ向けて、その足跡を継続してゆかれますことを心より念じ、ご挨拶といたします。

50 周年、誠にお目出とう存じます。



# 祝 辞



東京都足立区  
区長 近藤 やよい

本日はお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

東京江北ロータリークラブの創立 50 周年を心からお喜び申し上げます。

一口に 50 年と申しましても、なかなか、その年月の重さを実感できない部分もございますので、設立当時の 1960 年の足立区はどうだったかなど、出かける前に足立区史をひも解いてまいりました。

1960 年当時の足立区は、文化のバロメーターと言われておりました下水道の普及率は一桁でございました。また、日光街道等の幹線道路以外は、ほとんど舗装されていない砂利道でございましたし、ちょっと中に入れば、まだ蓋のされていない大小のどぶが縦横無尽に走り、少しの雨でもどぶがあふれ、台風が来れば川があふれるというような、まだまだ都市基盤整備が未熟な自治体だった時代でございます。

そして今、50 年経った訳でございますが、お蔭さまで千住地区を中心と致しまして、5 つの大学の進出が決まり、また新線の開業などにより、人口も 3 年弱で 2 万人ほど増加いたしました。さらに、千住大橋等の拠点整備も、まだこれからでございますので、今後さらに発展するのりしろが多い、懐の深い足立区というのが

現状でございます。

今、多田ガバナーがおっしゃいましたように、東京江北ロータリークラブの皆様方には、ロータリーの活動を通じては元より、それぞれのお仕事を通じて、50 年の確かな足立区の歩みに、大きな貢献を頂戴しております。現在の足立区は、機能面で内外に高い評価を頂くところまで参りましたけれども、区民の中には、非常に便利なまちだ、住みやすいまちだという評価はあっても、まだ、残念ながら誇りを持てるまちだということまで行っていない現実もございます。その最も大きな理由として、治安や教育レベルがあげられております。

お祝いの会には大変恐縮ではございますけれども、足立区は都内の刑法犯認知件数ワーストワン 4 年連続ということで、今、「美しいまちは安全なまち」というキャッチフレーズで、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開しております。便利なまち、愛着の持てるまちからさらに一步進んで、「住んでいる方が誇りを持って住み続けられるまち、足立」を目指して頑張っております。そうした区の大きな目標に、ご賛同くださり、力強い推進エンジンの役割を果たして頂いているのが、東京江北ロータリークラブの皆様方でございます。



## 祝 辞

50周年の記念事業の一環として、先ほど紹介のございました区の庁舎南側に、樹齢50年の桜を植樹頂きました。出かける前に、私が様子を見て参りましたら、しだれの枝の部分が頼もしく成長しておりますし、専門家によりますと、植樹をした年はなかなか花が咲くのは難しいという話もございますが、ちらほら、蕾も育てておりまして、今後の気候次第では、今年も早速、花が楽しめるという大変うれしいニュースもございます。是非、区役所にお出かけの節には、植樹の桜を愛でて頂きまして、50年、60年、70年と、さきほど「明日に向かって」というお話もございましたけれども、皆様方の希望の象徴にして頂きたいと思えます。

私ども足立区は、平成24年に区政80周年を迎える訳でございます。一方、皆様方が50年ということで、お互い大きな節目を迎える訳でございますが、そうした一つひとつの周年は通過点に過ぎません。今後益々の東京江北ロータリークラブのご発展を心からご期待申し上げますと同時に、皆様方のご活躍があってこそ、足立区の実発展であると私は信じてやみません。誠におめでとうございました。



# 祝 辞

国際ロータリー 2580 地区東分区  
ガバナー補佐 **大森 幹彦**



東京江北ロータリークラブの皆様、創立 50 周年、誠におめでたく心よりお祝い申し上げます。

東京江北ロータリークラブの皆様にとって大変意義のあるおめでたい本日、東分区のガバナー補佐として祝辞を述べさせていただく事は誠に光栄な事と感謝いたしております。

東京江北ロータリークラブが 1960 年に創立され、今年が 50 年目と言う事はご案内の通りですが、私自身はといいますと、前年の 1959 年の暮れから 1960 年の 2 月にかけてアメリカへ行っておまして、アメリカのショウビジネスとか映画の現場とかを見て回るという結構な役どころでした。NY ではサウンド・オブ・ミュージックの初演…これは映画ではジュリー・アンドリュースがやっておりましたが、舞台はメリー・マーチンと言うちょっとお年の女優が好演しておりました。ジュリー・アンドリュースはその時は同じブロードウェイで 3 年目のマイ・フェア・レディをやっており、これもまた大好評でした。テレビ番組の製作現場のエド・サリバンショウとかハリー・ベラフォンテのステージやハリウッドの撮影所を訪ねるなどと、ノンキに勉強いたしまして、日本へ帰ってみれば、60 年安保で大騒動の最中で、その年

のことはよく記憶しております。

よく考えてみれば、そのさなかに東京江北ロータリークラブが創立されたと言う事なんだと今更ながら大変に驚いており、その時参加されたチャーター・メンバーの方々の心意気に感服いたしております。

またその後の 50 年のうち、ごく僅かな部分しか私など存知あげないわけではありますが、東分区 15 クラブの中で、最も格式高く、ロータリーらしいロータリー活動をされており、私を含めて親クラブである東京東ロータリークラブも含めまして、この『東京江北ロータリークラブ』を範として尊敬いたしておるところであります。

50 周年のよき日に当たり、会員の皆様のご健勝と東京江北ロータリークラブの益々のご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

ご清聴有難うございました。



# 祝 辞

国際ロータリー第 2580 地区  
ガバナーエレクト **上野 操**



本日は東京江北ロータリークラブ創立 50 周年記念おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

東京江北ロータリークラブは東分区内の長兄であり、私は同じ東分区内にある東京江戸川ロータリークラブの会員であります。

東分区は隅田川より東、江戸川までの下町 15 のクラブで構成されておりますが、その総本家が東京東ロータリークラブであり、その東京東ロータリークラブが最初に産んだ長男が東京江北ロータリークラブであります。

巷間、長男は総領の甚六といわれておりますが、とんでもない、我々が総領は、極めて聡明で、義理と人情にあつく、進取の気性に富んだ素晴らしいクラブでありまして、親クラブには礼を尽くし、我儉な我々弟や甥姪クラブには優しく、とかく敷居の高い総本家との橋渡しに気をつけてくれています。そして、東分区は一つと云われるぐらいに分区内の親睦と融和が計られておりますのも、こういった東京江北ロータリークラブさんのお蔭でございます。あらためてお礼申し上げます。

ところで、当クラブ創立 50 周年記念というのは、我々個人の人生における 50 年とは到底比較にならないほど重く大きなものがありま

す。

それは、創立時から 50 年の間に、入会し、物故なされたり退会なされたりした約 240 人の方々の、クラブを通しての様々な人間関係と地域社会に対する様々な奉仕活動によって築かれた、貴重な精神的文化遺産を、後進の現会員 55 名の皆様方に遺してくれているからであります。

我々が行う周年行事というものは、年の節目々々に先人達の過去の貢献に思いをいたし、歴史と伝統を確実に引き継ぎ、更に未来に発展させていくことに意味があると思います。

どうか今後も、貴クラブが東分区の長兄として、我々弟クラブや甥姪クラブ達に、相変わらず優しくご指導下さることをお願いいたしまして、祝辞に代えさせていただきます。ありがとうございました。



# 祝 辞

国際ロータリー 5160 地区 1984 - 85

ガバナー エイドリアン・メンデス  
(Adrian Mendes / Rotary Club of Walnut Creek)



Good Evening Konban wa  
Omedeto gozaimasu---Congratulations to the Rotary Club of Tokyo-Kohoku in celebrating your 50th year since chartering with Rotary International. This makes it a very special evening that we, from the Rotary Club of Walnut Creek, can be here for this very auspicious occasion. What a magnificent relationship we have enjoyed for more than forty-three years. Because of the enthusiasm and vitality of our Rotary Club Members, our student exchange program would not have succeeded all these many years. Each and every member of our Rotary Clubs has participated and contributed to this success. Let's give ourselves a loud round of applause.

I am so proud to be a member of The Rotary World. Through this unique organization, all of us in this room have grown in understanding another nation's customs, ways of living, language and food. On our Rotary pins is the word International, which is a reminder of what is happening in this room this evening. This is the ideals of Rotary International in action.

There is no better way in respecting Rotary International in commemorating the magnificent achievements of both Rotary Clubs in helping to make the world a better place in which to live.

皆様、コンバンワ。

オメデトウ ゴザイマス。国際ロータリーから認証を受け、50周年を迎える東京江北ロータリークラブに対し衷心よりご祝福を申し上げます。東京江北ロータリークラブの皆様と同様に、我々ウォルナット・クリークロータリークラブにとっても、この場にお呼び頂き、たいへんお目出度いことでもあります。両クラブが43年以上にわたり良好な関係を築いて来られたのは誠に素晴らしいことでもあります。

両クラブが継続してきた「夏期交換学生プログラム」は、会員皆様の「情熱」や「強い意志」がなければ達成できませんでした。このすばらしいプログラムに大きな拍手をもって称えましょう。

私は国際ロータリーの会員であることを誇りに思います。国際ロータリーのユニークな活動を通して、皆様と同様に、他の国々の習慣、生活の仕方、言葉や食文化を理解してきました。



# 祝 辞

私達が胸に付けているロータリーバッジ(ピン)は、国際的な合言葉であり、今日この席でまされに行われている両国の交流を意味しております。このような活動が国際ロータリーの理想であります。国際ロータリーの活動を尊重し、両クラブが成し得た稀なる業績を記念すること、そしてこのような活動を通してこそ、今、私達が生きているこの世界をより良くすることに繋がるのであります。

ウォルナット・クリーク RC 歓迎委員会  
委員長 伊藤 隆 (翻訳)



# 事業報告

国際ロータリー 2580 地区 東京江北ロータリークラブ  
創立 50 周年記念事業実行委員会  
委員長 佐藤 徹



足立区長近藤様、2580 地区ガバナー多田様、  
御来賓の皆様

本日は何かと御多用中の所、私共の創立 50 周年の記念例会に御出席を頂きまして誠に有難く厚く御礼申し上げます。毎週の例会を重ねる事、2451 回、今日の日を迎える事が出来ました事は、当クラブ諸先輩会員の努力もさる事乍ら、歴代ガバナー、分区代理・ガバナー補佐をはじめ本日御列席の各クラブ皆様方の御指導、御鞭撻のお陰と重ねて感謝申し上げる次第です。

この度の 50 周年記念式典を迎えるにあたり、実行委員会と致しましては熟慮の末、テーマを「明日に向かって」と決め、会員の総意の元、3 つの記念事業を企画し、取り組みました。

まずは 50 年に亘ってお世話になった地域、地元の皆様になんかの形でお役に立ちたい、その気持ちをどの様な形で表したら良いのか、25 周年の折は潤徳女子高等学校海外留学生奨学金制度を設立しましたが、今回はたまたま足立区役所にて江北の五色桜をよみがえらせる運動「ふるさと桜」のオーナー制度を募集中という事をお聞きし、環境問題への寄与も含めてこれに御協力する事を決定致しました。会員の名前の入った桜の木 60 本を植えて頂く事をお願い

し、そのパイロットツリーとして樹齢 50 年の八重紅しだれを 2 月 18 日に足立区役所の南側の中央公園に、近藤区長御臨席の下、植樹させて頂きました。

又、今日の東京江北 RC の基礎を築き固めてくださった当クラブの先輩の方々に礼をつくりたい、この思いから去る 3 月 4 日に西新井大師総持寺光明殿におきまして、濱野堅真僧正台下の下、池田パストガバナーの御遺族はじめ多数の御遺族の御出席を頂き、物故会員追悼法要をとり行わせて頂きました。

併せて今回は 43 年に亘って我が東京江北 RC 会員の子供達を夏の間約 1 カ月預かりあって参りました夏期交換学生プログラムのパートナーであるサンフランシスコのウォルナット・クリーク RC を御招待し、交換学生共々 4 日間、互いに旧交をあたためるプログラムを第 3 の記念事業とさせて頂きました。

またロータリー財団をはじめ米山記念奨学会、バギオ基金へも金一封を贈呈させて頂くと共に、記念誌につきましてはチャーターメンバーであります鈴木又右衛門名誉会員から貴重な資料を拝借し、この 6 月末配布を目指し着々と準備を進めております。

周囲の状況の変化が著しい昨今、ロータリー



# 事業報告

の原点と東京江北ロータリークラブの伝統を守りつつ、変化に対応出来るクラブの感性を養って行く事が我々の「明日に向かって」の努力であり、会員が誇りを持つ事が出来るクラブにして行く事が「明日に向かって」のクラブ奉仕の形であろうかと思えます。

今後も御出席の皆様、関係各位にこれまで以上の厳しい御指導、御鞭撻をお願い致しまして、実行委員長としての挨拶とさせていただきます。有難うございました。